

1号1号に思いをのせて





(平成15～19年度広報係担当)
町並・地域振興課 歴史まちづくり係
係長 西岡 真貴さん

広報紙は皆さんの笑顔
と
思
い
で
き
て
い
る



DTPが始まった平成19年6月号の広報紙。
このときに今の作り方になった



合併して新内子町になって初めての広報紙。平成17年1月号

「広報うちこ」って、
どうやってできるの

校正

文字や情報の間違いを見つけて訂正する

STEP
04



できた記事は各課の担当者に渡して校正します。広報担当者も校正するほか、読み合わせをして読みやすい文章になっているかを確認。「記者ハンドブック」を使いながら正しい標記になっているかもチェックします。

印刷・製本・配布

印刷会社にデータを渡して印刷してもらう

STEP
05



完成した紙面のデータを印刷会社へ送信。後日、送られてくる色を見るための校正紙で写真などを確認して、再調整します。印刷会社で印刷・製本された広報紙は毎月1日頃に役場に届き、区長さんを通じて配布されます。

広報には町の良いところがいっぱい

広報の仕事にずっと興味があり、体験できて楽しかったです。読みやすい紙面にするために、レイアウトや文字の大きさなど、細かなところまで考えて作られていることが分かりました。町の良いところを知ってもらえる、やりがいのある仕事だと思います。私が担当した「ぼくの夢わたしの夢」もぜひ、見てくださいね。

大森 美里さん = 小田上 =

企画

ページ割りや特集記事について考える

STEP
01



基本32ページの紙面にどんな内容を入れていくか考えます。特集は毎月組んでいて、その時々の方の話題を詳しくお知らせします。今月号は300号の特集だったので、私も企画会議に参加しました。誰にインタビューするかを決めるために、1号から今までの広報紙に目を通しました。

取材（インタビュー・撮影）

対象者に会って詳しく話を聞く

STEP
02



広報うちこには「人☆キラリ」や「住人十色」など、たくさんの町民が登場します。住民や職員の情報をもとに町で話題になっている人や輝いている人を探して、インタビューの依頼をします。私は「ぼくの夢わたしの夢」を担当させてもらって、大瀬小学校の下柳つばささんを取材しました。

編集

編集ソフトを使って紙面を作る

STEP
03



インタビューした内容を文章にします。分かりやすく書くのが難しくて時間がかかりました。紙面を作るのにDTP※という手法がとられていて、編集ソフトを使ってレイアウトした紙面に、文章を入れていきます。写真も専用のソフトで色などを細かく調整しています。

※DTP…DeskTop Publishing：出版物の編集やデザイン、レイアウトなどを自分で行うこと

毎月、皆さんの手元に届く『広報うちこ』は、どのように作られているのでしょうか。ここではインターンシップで広報制作の仕事を体験した愛媛大学の大森美里さんが、広報紙ができるまでの過程をリポートします。
合併第1号の発行に関わった元広報担当者の西岡真貴さんには、当時の思いを聞きました。



1_ 7人に増えてにぎやかになったみのりのメンバー。看板商品のあんこ餅の他、かきもちや豆入り、漬物などのふるさとの味を届けている 2_ 年末の小包の発送に向けて相談中。合間の世間話も楽しい 3_ 取材の日には味噌の仕込んでいた



1_ 7人に増えてにぎやかになったみのりのメンバー。看板商品のあんこ餅の他、かきもちや豆入り、漬物などのふるさとの味を届けている 2_ 年末の小包の発送に向けて相談中。合間の世間話も楽しい 3_ 取材の日には味噌の仕込んでいた

道の駅からりへの出荷や、再出された田渡川土曜市「およりんか」への参加など、活動の幅も広がりました。もちろん今も、餅を作るときには朝4時に集合して活動しています。「加工所みのり」は私たちの生きがいだから、これからも変わらずふるさとの味を皆さんに届けたいです。

町の「すてき」をこれからも届けたい

『広報うちこ』はこうした地域活動を毎号のように取り上げて、多くの住民が登場する広報紙です。これまで数々の取り組みを特集しましたが、どれも地域への思いの詰まった素晴らしい活動ばかりです。ここで紹介した以外にも、すてきな地域がまだまだたくさんあります。これからもそのまま輝き続けてほしいと願いながら、広報紙で届けていきます。



村並み保存運動が続く石畳地区と、ふるさとの味を守る田渡地区を特集

みのりも、ふるさとの味も、次の代につないでいきたい

加工所みのり
代表 中田 明美さん

私たちの「加工所みのり」が広報に取り上げられたのは、平成30年12月号でした。活動20周年を記念して、私たちが販売している加工品や、ふるさと小包の準備風景などを紹介してもらいました。ちょうどふるさと小包を発送する時期で、できたばかりの広報紙と一緒に送ることができました。私たちの思いを伝えることができたし、「小田のみのり」から「内子町全体のみのり」になったような気がしてうれしかったです。

当時はメンバーが5人で、平均年齢が約80歳でしたが、この4月からメンバーが7人になりました。平均年齢もグッと下がって、さらににぎやかに頑張っています。広報紙で伝えた「ふるさとをつなぐ種をまいていきたい」という思いは、少し実ったようです。ふるさと小包のお客さんも「息子に送ってほしい」とか「送ってくれていた家族が施設に入ったので、これからは自分が注文したい」とか言って、私たちの思いを応援してくれているのかなと感謝の気持ちでいっぱいです。

映っているのは頑張る皆さんの姿

輝き、そのままに――

全国広報コンクールで、平成29・30年の2年連続で内閣総理大臣賞を受賞した『広報うちこ』ですが、どちらも特集で取り上げた地域活動が高く評価されてのことでした。300号を機に改めて話を聞くと、今も変わらずに輝き続ける皆さんの姿がありました。



1_ 栗農家や宿の女将、パン屋など多くの住民が、地域を良くしようという共通の思いで活動している。中央が寶泉さん 2_ 地域の古民家を移築・改修した宿泊施設「石畳の宿」 3_ ブランド栗「完熟石畳栗」。栽培方法などにこだわり、丸々として甘いのが特徴



美しい風景をつなぐために、ワクワクする地域を目指したい

(株)石畳つなぐプロジェクト
代表 寶泉 武徳さん

広報で取り上げてもらったのは、石畳地区の美しい農村風景を守る活動「村並み保存運動」が30年を迎えたときです。人口が減少する中で地域を未来につないでいくため、住民同士で石畳の将来を思い描き、議論を重ねていました。私は囲炉裏を囲

んで語り合う若者グループの一員として紹介されました。メンバーの前向きな話から、何かが生まれそうなエネルギーを感じて頼もしく思ったものです。他にも多くの住民が運動に参加していました。地域を残したいという思いは皆同じ。その思いの部分を、広報紙は伝えてくれました。私たち住民にとっても、これまで続いた地域づくりの原点を振り返るきっかけになったと思います。

その後、石畳では地域に経済力をつけることをテーマに、住民の出資で「株式会社石畳つなぐプロジェクト」を立ち上げました。私は務めていた内子町役場を早期退職。現在は同社の代表として、ブランド栗「完熟石畳栗」を使ったスイーツの販売や、宿泊施設「石畳の宿」の運営などを行っています。会社の他にも、地区内では若い人がパン屋やカフェを開くなど、新しい事業体も生まれました。私たちの目的はこの地域を未来につないでいくことで、運動が始まった頃から変わっていません。課題は多いけれど、石畳らしいワクワクするような地域を目指して、挑戦を続けます。

紙面の魅力を 「声」で届けたい

Interview



音声訳ボランティア サークルころ
渡邊 恵子さん =大洲市=

サークルころは「声の広報紙」を作るグループです。紙面を音声訳してCDに録音し、視覚障がいのある人に届ける活動をしています。難しいのは声だけで分かりやすく伝えること。自分なりに噛み砕いた表現を使ったり、空気感を伝えたくて広報紙で紹介された場所に実際に訪れたりもしています。

紙面には住民の幸せがあふれ、いい写真がいっぱい。その良さをリスナーにどう届けるかは私たちの腕の見せ所です。「声の広報が届くのがうれしい」という声に喜びを感じながら、これからも町の魅力を声で届けていきたいです。



私の／冊／
2021.12月号

元内子町の地域おこし
協力隊の現内子町民

大切な町の情報発信ツール

岡山 紘明さん =小田下=

2021年12月号は、地域が向き合うべき課題を真正面から伝えた心に残る特集でした。私も取材され、地域への思いを伝えました。広報うちこは住民がたくさん登場しますが、行政職員ももっと紙面に登場して、どんな人がどんな思いで働いているかを聞きたいです。町の大切な情報発信ツールなので、新しい取り組みをどんどん取り上げて、これからも読む人のための記事を提供してください。

応援してくれる人が増えた

あずみ 本田亜純さん、ひまりさん =立川中央=

【ひまりさん(左)】広報紙に出た後に地域のおばあちゃんから応援の手紙をもらいました。びっくりしたけれど、うれしかったです。出場したコンクールでは目標だった金賞が取れて、初めてうれし涙が出ました。受賞者コンサートが3月にあるので、楽しく弾きたいです。

【亜純さん】2022年1月号で紹介してもらった後、手紙や連絡をたくさんもらいました。応援してくれる人がいて本当に力になりました。



私の／冊／
2022.1月号

ピアノで度々、
広報紙に登場

誰かの頑張る姿や思いが
いつか町の力に

今回の特集では300号をきっかけに、広報紙に関わる皆さんの声を集めました。その声からは、この町には輝く人と地域への愛があふれ、そんな住民の姿そのものが町の魅力なのだ改めて気づかされます。

『広報うちこ』にできることは、町の「今」を伝えることです。町のお知らせだけではなく、その時々地域の皆さんの頑張りの思いを、紙面に映してきました。手に取ってもらえば、知らなかった町の良いところを知れたり、かわいい子どもたちの姿を見て笑顔になったり、頑張る皆さんの姿に元気づけられたり——。

きつとあなたのためになることがあるはず。

広報紙だけで町を変えることは難しいかもしれませんが、誰かの頑張る姿や地域への思いに触れて、自分も頑張ろうと思ってもらえたら、それが町の力になるのだと思います。

この町がもっと好きになれるような広報紙を、これからも皆さんと一緒に作っていきます。

町のアルバムのような存在

宮瀬 弘吉さん =内子12=

広報紙は自分たちの町の歴史を振り返ることができるアルバムのようなもの。町のよさや様子を伝える記事は、住んでいることがうれしくなり、町に誇りを感じられます。旧内子町の広報紙が発行されてから40周年となる今年、アルバムを見るように懐かしんでほしいと思い、広報うちこの企画展を図書館で開きました。私自身も家族が登場した号があり、懐かしい思いで読み返しました。これからも町のよさを残し続ける広報であってほしいです。



私の／冊／
1998.12月号

※旧内子町の広報紙です

内子図書館の館長
7月に広報企画展を開催

内子ならではの話題が楽しい

高本 千恵さん =本町2=

2021年1月号の方言特集が印象に残っています。娘がほかの内子の方言を調べてくれて、二人で一緒に笑って盛り上がりました。地域の話題がたくさんあると、家族の会話も増えるのでうれしいです。今は広報モニターをしているので隔々まで読みますが、それまでは全部は読んでいませんでした。文字ばかりだと見過ごしてしまうことがあります。住民にとって大事なお知らせは分かりやすく、見やすく作ってもらえともっと良くなると思います。



私の／冊／
2021.1月号

毎月アンケートをお願い
している広報モニターさん

子どもたちの姿に元気をもらえる

岡田 裕香さん、結衣さん =上宿間=

【裕香さん(右)】自分の子どもが掲載されると親はうれしいものです。初めてのバースデーに掲載されたときも感激しました。末っ子の娘が中学校を卒業してから、地域の子どもに触れる機会が減り、学校の様子も分からなくなりました。体育祭など、子どもたちの元気な姿を広報で見られたらうれしいです。

【結衣さん】第1号に出てたの知っていませんでした。母が喜んでくれているのでよかったです。私は「ぼくの夢わたしの夢」のコーナーが好きです。夢を追う子どもたちの姿がいいので、これからも続けてほしいコーナーです。



私の／冊／
2005.1月号

第1号の「はじめての
バースデー」に掲載

みんなで作る
ふるさと広報紙

住民が主役の『広報うちこ』は毎号、多くの人々が登場します。町の皆さんの力があつての300号。これまで広報に関わってもらった皆さんのエピソードや、これからの広報に期待することなどを、皆さんの「この1冊」とともに紹介します。